

林業福島

No. 703

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



3

2023



監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 新緑の只見線



山村の活性化に向けて

福島県町村会長
広野町長 遠藤 智

森林・林業関係者の皆様には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに対しまして、心から敬意を表するものであります。

さて、森林がその大半を占めている山村地域は、食料・森林資源の生産はもとより、国土の保全・災害防止や水資源の涵養、歴史・文化の伝承などに重要な役割を担っており、国民共有のかけがえのない財産であります。

しかしながら、山村を取り巻く環境は、人口減少・高齢化の進展やこれに伴う集落機能の衰退、自然災害や鳥獣被害の増加、さらには長期化するコロナ禍や原油価格、物価高騰等が地域の経済活動に深刻な影響をもたらしており厳しい状況が続いております。

このような中で、近年、コロナ禍により都市への人口集中の弊害が顕在化し、人口の地方分散の必要性が高まっており、さらには若者や都市住民の田園回帰の動きが活発化しているとともに、山村地域の活性化に重要な役割を担うことが期待されている関係人口が増加しているなど、山村が有する多面的・公益的機能が広く国民に再認識され、山村の果たす役割の重要性が増しております。

また、森林環境譲与税及び特定地域づくり事業協同組合制度の創設や公共建築物木材利用促進法の改正など、山村地域にとって有益な政策が制度化・拡充された外、遅れていたデジタル化についてもデジタル田園都市国家構想に基づきスマート林業等の事業が進められているところであります。併せて本県では林業を担う人材を育成するため、昨年四月に林業アカデミーふくしまが開講するなど、森林・林業の再生に向けた取組が着実に進展しております。

加えて、二〇五〇年のカーボンニュートラル達成を見据え、戦後造成された人工林の適切な管理、高齢化して二酸化炭素を吸収しにくくなった森林の有効活用など森林資源の循環利用はもとより、林業の成長産業化を図ることが重要であります。

国民に多くの恵みをもたらす美しく伝統ある山村を日本人の「心のふるさと」として次世代に引き継ぐことが、現在を生きる我々の使命であると考えっております。

福島県町村会といたしましては、今後も関係団体との連携を強化しながら、山村地域の活性化が図られるよう取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

山村の活性化に向けて

福島県町村会長 広野町長 遠藤 智…	1
令和4年度林業研究グループ等活動発表会・	
林業普及指導員全体研修会を開催しました…	2～4
緑の募金のご協力、よろしく願いいたします	
……………	5～6
林業アカデミーふくしま研修日誌⑩…	7

「新たな森林づくり」⑧ ……………	8
森連だより……………	9
きのこセンターだより……………	10
木の文化を育む④……………	11
木材市況・ふくしま東西南北……………	12
はなしのひろば・お知らせコーナー……………	13

令和四年度 林業研究グループ等活動発表会・ 林業普及指導員全体研修会を開催しました

福島県森林計画課

〔令和四年度 林業研究グループ等活動発表会〕

令和五年一月三十一日(火)に、林業研究センター研修本館で令和四年度林業研究グループ等活動発表会を開催しました。

例年この発表会では、県内各地で自主的な実践活動を行っているグループの代表がその取組を発表することにより、各林業研究グループの活動の展開に資することを目的に開催しており、今回は五団体から、里山再生や森林環境学習の活動、桐や山菜等特用林産物の普及活動など、地域の文化や特色を活かした様々な活動について発表がありました。

審査会の結果、最優秀賞には星比呂志さん、齋藤洋一さん(会津里山森林資源育成研究会)、優秀賞には小椋勝美さん(里山自然塾)が選ばれました。

最優秀賞を受賞した会津森林資源育成研究会は、林業研究センターが

開発した新しい栽培技術である「桐玉植苗」の生産、配布を行い、会津地域の里山における森林資源の保全と利用に資することを目的に活動しています。

玉植苗は、桐を実生から栽培し、鉢で根を育て、植栽前後で台切り(地上部を切除)を行うことで病気や野生動物による被害を受けにくく、植栽後の成長が早い等のメリットがあります。

同研究会は、ノウハウや技術を活かし、地域や学校と連携・協働して桐育成技術の普及に取組んでおり、今後の活動の更なる広がりが見込まれます。

また、会津森林資源育成研究会には、令和五年度に青森県で開催される「東北・北海道ブロック林業グループコンクール」において福島県代表として発表いただきます。

優秀賞を受賞した里山自然塾は、自然から享受してきた山菜等を活用し、南会津地域の食文化を後世に継

承することを目的に活動しています。

活動では、地域の情報収集やアケビ栽培の先進地研修を実施し、学んだことをもとに調理実習や試食により調理方法の検討を行いました。

作成したレシピにはオリジナルメニュー「アケビの皮の天ぷら」や「オヤマボクチの蕎麦」、「ノブドウの葉のお茶」等があります。同グループでは今後、これらの郷土食を地域に広げる活動を行ってまいります。

各グループの発表課題は、次のとおりです。

● 林業活性化に向けた産学連携の取組について

(福島県北森林組合 白岩 誠)

● 「里山の四季」体験活動を通して

(特定非営利活動法人小野自然倶楽部 大方 俊浩)

● 金沢地域里山再生プロジェクト

～自分たちの地域は自分たちの手で～

(金沢地域里山づくり実行委員会 片野 恵仁)

● 会津桐の苗木生産と普及等を通じた桐森林資源の育成への取組

(会津里山森林資源育成研究会 星 比呂志、齋藤 洋一)

● 山菜類を活用した伝統食文化の継承と新たな食材発掘について

(里山自然塾 小椋 勝美)



林業研究グループ等活動発表会の会場と発表の様子

【森林自己学習支援事業成果報告】

森林自己学習支援事業は、福島県森林環境税を活用し、今後新たに社会の担い手となる二〇歳前後の青年を対象とした補助事業で、大学等のサークル活動などにおける、ふくしまの森林に対する関心と理解の拡大に向けた取組を支援しているものです。

今回、本事業における成果報告として、大学生などが所属する六グループの活動を同会場内にポスター展示したほか、次の二グループが代表発表を行うとともに、質疑を通じて林業グループと相互間の情報交換が図られました。

●福島大学

Sika Deer Control southern Aizu (SDCs)

会津地方南部で分布拡大するニホンジカの生息状況調査や遺伝子解析など、森林被害対策に関する取組を発表しました。

●郡山女子大学

ナチュラライフスタイル部
（こおりやま開成の杜復活プロジェクト）

東日本大震災以降、放射線等の影響で活用が難しくなってしまった学
校林「郡山開成学園総合教育園」の

放射線量の測定や環境調査など環境改善に向けた取組について発表しました。



学生グループによる成果報告



グループ活動ポスター展示

【林業アカデミーふくしまの紹介と 内覧会の開催】

今年度本格開講した「林業アカデミーふくしま」に関する紹介を行い、本県の林業の現状と課題、人材確保・育成に向けた取組を説明しました。



研修棟内を案内する様子

閉会後には林業アカデミーふくしまの研修施設内覧会を実施し、多くの方に参加いただきました。

施設案内では福島県の木材や技術を使用した施設の見所などをお伝えし、参加された方は直接木の床や壁に触れたり、実習棟で行われていた研修の様子を見学したりするなど、様々な観点から見学を楽しまれました。



トリオブレイチェーンソーについて説明する様子



実習棟での研修を見学する参加者

〔令和四年度
林業普及指導員全体研修会〕

令和五年二月一日(水)に、令和四年度林業普及指導員全体研修会を林業研究センター研修本館で開催しました。

今年度は、県内の各普及地区の代表者七名が、震災からの復興や森林整備の推進のほか、木育、森林環境学習、林業の現場見学会における普及啓発活動など様々な地域課題の解決に向けた取組の成果を報告し、それぞれの発表に対し活発な質疑応答が交わされました。

発表会の審査の結果、最優秀賞には五十嵐正徳さん(南会津農林事務所)、優秀賞には澁谷恵子さん(会津農林事務所)が選ばれました。

最優秀賞を受賞した五十嵐さんは、南会津地方の地域材をニユースポーツ「モルック」の材料にし、各種イベントを通じてモルックを体験してもらおうと地域の木育を推進しました。モルックは、木の棒(モルック)を投げて地面に立てた複数のピンを倒すフィンランド発祥のスポーツで、世界大会も行われています。

林業関係者のみならず、自治体や学校、幅広い世代に森林への親しみ

や関心を持ってもらうことで今後、さらに普及活動が盛り上がりつついくことが期待できます。

また、五十嵐さんには、令和五年度に岩手県で開催される「林業普及指導員北海道・東北ブロックシンポジウム」において、福島県代表として発表いただきます。

優秀賞を受賞した澁谷さんは、会津地域の小学生や高校生を対象に、森林環境学習や林業の現場見学会を実施し、森林・林業・木材産業への関心を高め、森林整備や地域の森林の管理を行う林業の担い手確保に向けた意識醸成活動に取組みました。

小学生は「森林の働きや林業という仕事の重要性」に関する講話や特用林産物とのふれあい体験、高校生は実際に素材生産の現場に行き、迫力ある高性能林業機械による育林・収穫の作業風景を見学しました。

この取組がきっかけとなり、興味を持った方たちが、将来林業の現場で働く「担い手」となる事を期待します。

各林業普及指導地区からの活動発表課題名は次のとおりです。

●ふくふくしめじ生産・販売支援の

取組

(県北農林事務所)

主任主査 江村 健
●須賀川市における松林保護の取組について
(県中農林事務所)

主査 平塚 真基
●林業の担い手確保・育成に向けた取組
(県南農林事務所)

主任主査 山田 茂隆
●小学生を対象とした森林環境学習及び高校生林業見学会による普及啓発について
(会津農林事務所)

副主査 澁谷 恵子
●NEW SPORTS
「モルック」を活用した木育の推進
(南会津農林事務所)

主任主査 五十嵐正徳



高まるモルック熱

●安全・安心な飯館村産栽培わらびの出荷に向けた取組
(相双農林事務所)

技師 益田 明佳
●いわき地区林業活性化センターにおける一貫作業推進に向けた取組
(いわき農林事務所)

主任主査 藤田 学



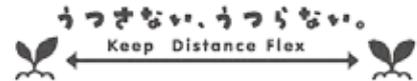
最優秀賞の授与



令和5年度の緑の募金目標額 7,000万円

緑の募金のご協力、よろしく願っています

緑の募金の実績



令和4年度の緑の募金につきましては、コロナ禍にもかかわらず、これまでのところ（4月～1月分集計）、下記のとおり5,268万円（前年度実績6,189万円）のご寄付をいただきました。多くの皆様方の善意に厚く御礼申し上げます。

緑の募金は、緑豊かな潤いある美しいふくしまを目指し、緑化の推進、森林の整備、次代を担う青少年の育成、森林ボランティア活動の支援などに活用させていただいており、地球環境の保全、地域の緑化環境の整備、緑化運動への理解醸成等に貢献しています。

令和5年度の「緑の募金」春季募金推進期間は、例年どおり4月1日から5月31日までとなりますが、引き続き緑の募金を活用した幅広い分野における緑化運動を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしく願っています。

令和5年の緑化運動標語
「緑植え ぼくにもできた SDGs」

〒960-8043

福島市中町5-18 福島県林業会館内

(公社)福島県森林・林業・緑化協会

(緑化推進局 緑化推進課)

TEL 024-524-1480 FAX 024-521-3246

令和4年度「緑の募金」実績（令和4年4月1日～令和5年1月31日）

単位：円

市・地方緑化推進委員会	募金の種類					計
	街頭募金	家庭募金	企業募金	職場募金	学校募金	
福島市緑化推進委員会	23,264	0	1,646,400	800,207	1,225,871	3,695,742
伊達市緑化推進委員会	2,903	1,719,280	270,324	258,023	53,794	2,304,324
伊達郡緑化推進委員会	22,625	1,028,531	262,000	92,025	29,264	1,434,445
二本松市緑化推進委員会	29,560	1,444,921	10,000	237,100	265,624	1,987,205
本宮地域緑化推進委員会	28,701	860,800	287,766	85,621	70,058	1,332,946
国土緑化郡山市推進委員会	0	2,167,162	104,048	144,642	0	2,415,852
須賀川市緑化推進委員会	22,438	0	710,901	357,400	320,888	1,411,627
国土緑化岩瀬地方推進委員会	0	471,200	3,244	65,821	38,624	578,889
田村市緑化推進委員会	9,844	948,800	325,764	223,500	25,903	1,533,811
田村地方緑化推進委員会	0	851,300	60,000	159,800	0	1,071,100
国土緑化石川地方推進委員会	4,864	1,046,150	284,474	158,986	283,110	1,777,584
白河市緑化推進委員会	0	1,274,391	407,559	286,302	0	1,968,252
国土緑化西白河地方推進委員会	9,604	1,410,300	371,151	200,391	40,270	2,031,716
国土緑化東白川地方推進委員会	30,841	709,400	191,908	202,739	42,620	1,177,508
国土緑化会津若松市推進委員会	0	3,719,130	446,408	672,869	395,997	5,234,404
両沼地方緑化推進委員会	7,554	1,364,335	83,437	201,583	0	1,656,909
会津耶麻地方緑化推進委員会	651	908,900	121,900	172,664	121,327	1,325,442
喜多方市緑化推進委員会	5,214	1,485,800	456,000	517,235	1,500	2,465,749
南会津地方緑化推進委員会	6,018	1,278,250	26,925	176,770	24,124	1,512,087
相馬地方緑化推進委員会	3,631	1,171,021	0	617,829	0	1,792,481
双葉地方緑化推進委員会	0	0	0	0	0	0
いわき市緑化推進委員会	33,736	8,153,710	924,002	1,627,156	363,530	11,102,134
小計	241,448	32,013,381	6,994,211	7,258,663	3,302,504	49,810,207
事務局	191,523	0	1,972,733	492,104	214,660	2,871,020
合計	432,971	32,013,381	8,966,944	7,750,767	3,517,164	52,681,227

※街頭募金にイベント募金、常設募金等を含む

【緑の募金の活用事例】を紹介します。

- (1) 平成30年に開催された全国植樹祭の理念を引き継ぎ、「未来へつなぐ希望の森林づくり」をコンセプトに今年度は矢吹町の恩賜林で「第5回ふくしま植樹祭」を開催し、植樹・育樹活動を行いました。



第5回ふくしま植樹祭（矢吹町）集合写真



植樹作業

- (2) 県内各地で森林づくり団体等が、植栽や下刈りなどの森林整備活動を行うことで、自然災害の防止や地球温暖化防止等に貢献しています。
- (3) 県内の各市・地方緑化推進委員会が「地方植樹祭」を開催することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。
- (4) 今年度は只見町で開催した「第34回ふくしま緑の百景歩こう会」の参加者に、緑化苗木を配布することで、緑化の重要性を普及しています。



森林づくり団体による下刈り作業



地方植樹祭（南会津町）植樹作業



歩こう会スタート



森林づくり団体による植樹作業



地方植樹祭（磐梯町）育樹作業



苗木配布

- (5) 小・中・高校生や地域のNPO法人が、花苗の定植や花壇づくりにより学校や公共施設の環境整備を推進することで、地域の環境緑化の推進と緑化意識の高揚が図られています。



小学生による花壇整備



中学生による緑化活動

林業アカデミーふくしま研修日誌⑩

福島県林業研究センター

一月は林業の経営の考え方や実務を学びました。第一期生の就業前期研修もラストスパート。日々を大切に研修に励みます。

○一月の研修内容

「林業経営の基礎」講座では、林業を生業とするにはどのような在り方があるのかを学びました。講師は、株式会社サンライフ及びふくしま中央森林組合都路事業所に快く引き受けていただき、組織の成り立ちや、どのような業務をどのような組織体制で行っているのかなどをお話しいただきました。研修生は意欲的に質問をしていました。一月も引き続き、複数の森林組合・林業事業体・林家の方々にご協力いただき、林業経営に関するお話をいただき、質疑応答を行う予定です。

一月後半の二週間は、三回目となる「インターンシップ」を行いました。研修生は県内各地の十三の林業事業体に受け入れていただきました。受け入れていただいた事業体の皆様、ありがとうございます。三

回目のインターンシップは就業に向けた準備を主眼としており、その事業体・その地域で働くことを強く意識して、現場の方々に指導していただきながら測量や伐木造材などの実務に励みました。

インターンシップを終えて研修施設に帰ってきた研修生たちは、報告会というかたちでそれぞれの経験を共有しました。

林業アカデミーふくしま研修日誌は一月の様子をお伝えする本号をもって一旦完結しますが、二月、三月も研修は続いています。本稿が皆様のお手元に届く三月上旬には、研修生たちは修了式を控え、その後の新生活に向けて準備に忙しくしている頃でしょう。

もうすぐ、第一期研修生十四名が柚人^{そまびと}として活躍し始めます。一年という限られた時間ではありませんが、林業アカデミーふくしまに集い、学んだ研修生たち。林業の世界のスタートラインに立った彼らがこれから携わる仕事の一つ一つが福島県の森の明日を紡ぎます。

○研修生の感想 田中裕顕さん

アカデミーでの研修も残すところあと少しとなりました。

一月の中で最も印象に残っているのはインターンシップで株式会社アメリカ屋様にお世話になったことです。「林業に対する考え」や、「なぜその事業を行っているのか」等、アカデミーの講義だけでは学ぶことのない事業体としての意見を聞かせて頂いたほか、標準地調査や現場の進行管理業務、森林整備のお仕事をさせて頂く等のヒアリングや実務を経験により、自身の将来の林業業界で働くイメージがより現実的なものとなりました。

残り短い期間ですが、インターンシップでの経験から課題も見えたので、今までの復習とこれからの講義に熱を入れて最後まで取り組みたいと思います。

○研修生の感想 齋藤宏樹さん

第二の青春。そのようなアカデミー生活も十ヶ月が過ぎました。あつという間の、ジェットコースター。私は、この一年間で「基礎知識・技術の習得、修練」を最大にして唯一の目標に掲げ、知見を深めて参りました。チェインソーの扱いや各種資格の取得、施業の流れ、人脈の広がり、己に沁みゆくことに至る喜びを感じるとともに、「基礎を」「基礎を」と唱える毎日でした。乗り遅れたり、振り落とされてしまえば、このコースターに再乗車はできません。それほど講義の内容は多様で、量・質に富んでいました。

この環境を創り上げて頂いたスタッフの皆様・関係者各位、アカデミーの研修生に感謝します。感謝し続けます。この感謝の心を忘れずに、生きがいとなった林業を通し、具体的に福島に貢献して参ります。



林業経営に関する質問をする研修生たち



インターンシップ先で指導を受けながら実務を経験する研修生



インターンシップでの互いの経験を報告しあう様子

シリーズ「新たな森林づくり」⑧ 花粉の少ない森林づくりに向けた取組 花粉の少ない森林づくり推進事業

福島県森林整備課・林業研究センター

一、花粉の少ない森林づくり推進事業の概要

花粉症は、近年では国民の約四割が罹患し国民病とも言われております。

そのため、スギやヒノキ人工林等の再造林においては、少花粉品種や花粉量が通常の半分以下である特定母樹から生産された苗木の積極的な活用が求められております。

花粉の少ない森林づくり推進事業では、花粉発生源対策のため、県民参加の森林づくり活動を通じてこれらの苗木の普及啓発を行ってまいります。また、令和五年度から新たに特定母樹の実証展示林の造成によるPRを行うべく予定しております。

事業の内容

- (1) 少花粉スギや特定母樹等、花粉発生量の少ない苗木を動員し、市民参加の森林づくりを初期成長等の特性をPRする。
- (2) 特定母樹の実証展示林を造成し、通常のスギと比較して特性を一目で見える形でPRすることにより、造林者らの造林意欲の醸成を図る。

二、取組の紹介

(1) 苗木の養成・配布

花粉症対策品種等の普及啓発を行うため、挿し木苗を養成して、次の取組に活用しています。

①環境に配慮した住民参加の森林づくり（「地方植樹祭」や「企業の森林づくり」など）にPR用苗木として無償配布、②花粉症対策品種等の種子を確保・供給するために造成が進む採種圃園の造成用苗木として活用。

荒穂取り、穂づくり、挿し付け、発根幼苗の養成、コンテナ苗化の各作業を経て、養成開始から二年で挿し木苗の配布となります（写真1）。これまでに約二、〇〇〇本の苗木を活用頂いております。

(2) 展示林の造成

成長量が従来比一・五倍、剛性および通直性に優れ、花粉は半分以上の「特定母樹」、また、花粉が従来比一割以下の「少花粉スギ」を、実際に現地で育成して、「従来スギ」と比較することで、その優れた特性への理解が深められます。



発根幼苗のコンテナ苗化・養成



PR用苗の出荷



挿し穂の養成



発根幼苗



挿し穂づくり



床への挿し付け

写真1 苗木の養成・配布

三、今後の展望

令和三年四月の間伐特措法（森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法）の延長・改正により、土地生産力が高く（地味が良い）、林道からの距離が近い（地利がよい）植栽に適した「特定植栽促進区域」を指定して、再造林を推進するものとされました。

そこに、優れた特性を備えた「特定母樹」、「少花粉スギ」を積極的に植栽することで、山側からの花粉発生源対策、森林による炭素吸収源対策、再造林コスト低減など諸効果の発揮が期待されます。

再造林による山づくりを担うべき新しい造林種苗の普及啓発を、本事業で推進してまいります。

本事業では、令和五年度から順次展示林を造成する計画です。初年度は、浜通り地区にある新地林木育種圃場（新地町杉目雁小屋地内）に一

森連だより

森林組合長会議 を開催

令和五年二月三日にビッグパレットふくしまにおいて「令和四年度第二回森林組合長会議」を開催しました。

会議では、皆伐再造林の推進に取り組んでいる栃木県の事例について、「循環施業（皆伐・再造林）の拡大を目指して」と題し、栃木県森林組合連合会の江連比出市会長を講師にご講演いただきました。

皆伐再造林についての議論は、全国的に課題となっているいびつな年齢構成に端を発し、福島県においても森林面積のうち約六〇割を占める民有林において、齢級別人工林面積は十齢級以上の高齢林が約七五割を占めています。

持続的な林業経営を行うためには、皆伐再造林による森林の若返りが必要ですが、皆伐後の再造林費用の負担等を懸念し、森林所有者の皆



伐施業への意識は低く、なかなか進まないのが現状です。

系統としても今後の組合経営を見据え、森林整備から林産事業を主体とした事業の展開と、地域森林管理の観点からも皆伐再造林を取り組むべき課題の一つと考えています。

今回の講演では、所有者への対応や、系統全体意識の舵取り、行政機関との連携といった、私たちが直面している課題について、まさに江連会長ご自身がこれまで取り組まれてきた内容を聴講することができ、大変充実した講演となりました。

他県の進捗に比べ、まだまだ取り組みなければならぬ事項は山積みですが、今回の講演を契機として、県内系統の連携と、スケールメリットを活かした事業展開に繋げていきたいと考えております。

また、昨年八月には当会を含む関

係団体による「皆伐再造林の推進を考える懇話会」が設立されました。一歩一歩ではありますが県全体として、持続可能な林業経営に向けた歩みを進めていきたいと思えます。会議では講演会のほかに、令和五年十月から施行されるインボイス制度について、全国森林組合連合会の佐々木大郎参事を講師に説明をいただきました。

森林組合では、組合員や一人親方等の免税事業者であることが想定される方との取引が多く、事業も多岐

にわたります。

そのため、各組合で実施している事業について、具体的にどのような対応が必要となるのか、また契約や経理仕訳における留意点など多くの質問が寄せられました。

これまで、当会では担当者向けの制度説明や個別の問い合わせ対応を行ってききましたが、今後さらに実務に即したより具体的な研修会を予定しており、各森林組合においてスムーズな制度対応ができるよう努めていきたいと考えています。



江連会長による皆伐再造林の取組事例講演



佐々木参事によるインボイス制度説明

きのこセンターだより

令和4年度
福島県きのこセミナー
を開催

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会
きのこ振興センター

容については、次のとおりです。

【勿来工場視察行程】

①オガヤード②仕込行程（培地の調整、袋詰め込み、殺菌、冷却、接種）↓③培養

① オガヤード・原材料となる広葉樹オガ粉をストックする場所で、産地、年間使用量、配合割合等の説明があり、隣接する栄養材ヤードでは使用する栄養材について、安全性、きのこに対する効果、オガ粉との配合割合等の説明を受けました。

② 仕込行程…ミキサーを使用し、オガ粉と栄養材に水を最適な割合で混ぜて培地を作製し、自動袋詰め機で詰め込み後、高圧殺菌操作、菌床冷却、接種を行うなど、仕込行程の説明があり、特に接種後の移動台車を使用した菌床運搬行程では、安全対策と効率性に工夫した作業現場の説明について参加者も関心を寄せていました。

③ 培養・接種後、菌床は速やかに培養棟に移動されます。二五万菌床収納可能な培養施設が二棟あり、温度二二〜二三℃、CO₂濃度は本施設で菌床が最適に仕上がる二、五〇〇ppm（通常の椎茸栽培より五〇〇ppmほど高め）



視察：勿来工場での視察の様子

で管理しているとの説明があり、空気の流れを考慮した培養室内は菌床が天井まで高く積み上げられていました。

【本社・工場視察行程】

④発芽↓⑤発生↓⑥収穫↓⑦包装・出荷

④ 発芽…芽出し室は二二〜二三℃の恒温、八五〜九〇％の多加湿で芽出しを促し、発芽後は芽残し処理がされ、最適な芽数で管理されています。

⑤ 発生…芽数調整後、室温二六℃、湿度七〇％の発生室に移され椎茸は成長が促されます。

⑥ 収穫…収穫は通常一日一回実施され、受注に応じて室温を約二℃上げ一八℃にして午前と午後の一、二回収穫します。収穫作業は熟練した職員が手際よく一人・五〇〜六七キログラム/日収穫します。

発生は一回で終了し、廃菌床はバイオマス発電の燃料として電力会社へ販売しますが、一部は二回目で降発生する椎茸を栽培する県内生産者へ販売しているとのこと



講演：本社会議室での講演の様子

⑦ 包装・出荷…良形質の椎茸を新鮮な状態で販売するため、基本的はその日収穫された椎茸は、即日包装出荷されます。品質の良さと安定した生産量から売り先は量販店中心に広がり、毎年、新規の顧客が増えていくとのこと。

工場の視察後、本社内会議室において二名の講師による講演会を実施しました。まず、農事組合法人いわき菌床椎茸組合、専務理事の松本正美様より、「菌床椎茸栽培の現状と課題」をテーマに、菌床椎茸組合の取り組み、栽培技術向上への取組姿勢、販路拡大での努力や今後の県産椎茸の展望などを講演いただきました。

次いで富士ハイテック株式会社、取締役の坂口則行様より、「新技術で支えるきのこ産業の展望」をテーマに、長野県ブナシメジ栽培の実例を上げ、機械化普及による大規模化とその後の対応、きのこ栽培に最も重要な殺菌についてと安全・省力化が進む栽培機械事情をご講演いただきました。

出席者は、最新施設に直に触れ、改めて椎茸栽培の現状に向かい、今後の椎茸栽培に大きなヒントを得たようです。これからも福島県きのこセミナーは、生産者からの意見をより積極的に取り入れ微力ながらも県きのこ産業の振興にお役に立てるよう、開催してまいります。

最後に、お忙しい中で今回ご協力いただいた農事組合法人いわき菌床椎茸組合様に感謝申し上げます。

令和五年一月二七日(金)、いわき市にて令和四年度福島県きのこセミナーを開催しました。本セミナーは、農事組合法人いわき菌床椎茸組合にご協力いただき、勿来工場及び本社・工場において開催され、三二名の県内のきのこ栽培者及び関係者が参加しました。今年度は、きのこ栽培に関する最新施設の視察、椎茸栽培に関する現状と課題及び最新機器類の紹介等の講演を通して、生産者の栽培技術向上と経営安定を図る目的で、福島県きのこセミナー初となる視察研修を実施しました。

農事組合法人いわき菌床椎茸組合は菌床椎茸を栽培する法人で、県内はもとより西日本地域まで椎茸を販売しており、テレビで「いわきゴールド椎茸」のCMを見たことがある方も多くと思います。本セミナーは、勿来工場において、はじめに、代表理事の渡部明雄様よりご挨拶をいただき、松本正美専務理事のご案内で、勿来工場及び本社・工場の視察研修を行いました。視察の行程並びに内

木の文化を育む④8

未来をつくる『山の学校』

(NPO法人しんせい)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

里山の自然環境は、地域社会の様々な課題を解決するとともに、新たに多様な価値を創出するフィールドとなつていきます。人々がつながり里山を活用することは、私たちの暮らしを豊かに、そして人々の生きる力を育みます。

○橋を架けようプロジェクト

特定非営利活動法人しんせい(郡山市)は、主に東日本大震災において地震・津波・原発事故によって多大な被害を被った障がい者などが、福島ので平和で安心した生活が送れるよう支援活動を行ってきました。同法人理事長 富永美保さんは、平成二五年に団体を設立し、今日に至るまで障がい者やヤングケアラーなど支援を必要とする人々の架け橋となり、支援活動を継続しています。障がい者の自立した生活を指し、裁縫や料理など技術習得の支援をするほか、カフェでの営業・販売などを通して、地域住民との交流を

図っています。また、県内十三か所の福祉事業所と力を合わせ、企業や団体、地域住民と協働で障がい者の支援を進め、これまでにお菓子や使用済み封筒を再生したカバンなどを製作しています。こうした活動が評価され、平成二九年には、SDGsアワードで内閣官房長官賞を受賞しています。富永さんは様々な立場の団体と力を合わせて事業をつくる「協働」を基本とし、「誰ひとり置き去りにしない」をモットーに支援活動を推進しています。

○山の農園

郡山市逢瀬にあるNPO法人しんせいの山の農園(環境に配慮した福祉農園)では、障がいのある人が社会の様々な人と協働で仕事をしています。「農業適格法人 activity」と「しんせい」の農福連携事業では、農園の野菜を使用し、にんじんのコールドプレスジュースやカレーなどの加工品づくりにも力を入れています。「山のにんじんカレー」は油や塩分

を控えた身体に優しいカレーで、開発には震災原発事故による避難所生活の経験が活かされ、非常食・保存食にもなります。

○規格外野菜の循環

山のにんじんカレーには地域農家の規格外野菜が使用されています。廃棄される規格外の野菜の有効活用は農家の課題でもあり、規格外野菜を加工し商品化することで、あらたな価値を創出し循環を生み出します。

○地域協働の新しい一歩

令和四年より同法人では山の農園プロジェクト「山の学校」を開校しました。国立環境研究所福島地域協働研究拠点の支援により、研究者と参加者が一緒に里山を散策しながら五感を使ってさまざまな体験をします。山の農園を活用した『環境学習』では、野草からみつめる「共生」や川の力をつかった「エネルギー」、「森の保水力」「森のきのこ」から考える備災、山の「気象データ」から読み解く未来など、里山をフィールドに様々なプログラムで学びを展開しています。

○自給自足を目指して

山の農園ではエネルギーの自給自足を目指しています。農園にある木を使用して炊飯やピザを焼いたり、バーベキューをしたり、風や太陽、川の水からエネルギーをつくり出す調査もしています。また「田んぼダ



県産材(三島町)を活用した
テーブルやベンチの製作



『環境学習』の様子
研究者より説明を受ける参加者

ム」や間伐材を活用し、減災を目的とした活動にも積極的に取り組んでいます。

○まとめ

社会や自然との共生から生み出される里山の地域循環は、持続可能な社会を実現するための課題解決につながります。生きる力を育むとともに、日本の里山が永続的に発展していくことを願います。



素材の価格 〈工場着価格〉 (2022年12月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	7 (7~7)	0	(0~0)		11 (11~11)	0	9 (7~11)	0
		10~14		並	スギ	15 (13~16)	△1	(0~0)		14 (14~14)	0	14 (13~16)	△1
	中	14~22	3.00	並	スギ	16 (15~17)	0	15 (15~15)	0	14 (14~15)	0	15 (14~17)	△1
				並	ヒノキ	17 (17~17)	0	(0~0)		19 (18~19)	0	18 (17~19)	0
		6.00	並	スギ	20 (19~22)	0	12 (12~12)	△9	21 (20~21)	0	19 (12~22)	△1	
			並	ヒノキ	28 (28~28)	△1	(0~0)		29 (29~29)	0	28 (28~29)	△1	
		20~28	3.65	並	スギ	15 (14~15)	0	14 (12~15)	0	14 (13~15)	0	14 (12~15)	0
			4.00	並	スギ	14 (14~15)	0	12 (11~12)	△1	14 (14~15)	0	13 (11~15)	0
	1.80	並	アカマツ	12 (11~12)	1	(0~0)		10 (10~10)	0	11 (10~12)	1		
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)		(0~0)		38 (38~38)	0	38 (38~38)	0
				並	米マツ	(0~0)		(0~0)		40 (40~40)	0	40 (40~40)	0
		28以下	4.00	並	エゾマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	0	36 (36~36)	0
並				アカマツ	(0~0)		(0~0)		36 (36~36)	0	36 (36~36)	0	
パルプ用材			並	マツ	7 (7~7)	0	(0~0)		(0~0)		7 (7~7)	0	
			並	広葉樹	10 (10~10)	0	(0~0)		(0~0)		10 (10~10)	0	

十一月の原木市場への入荷量は、前月比五割増（前年比二〇割増）の三一、三三立方メートルとなっている。
 販売量は、前月比五割増（前年比二〇割増）の三二、二九四立方メートルとなっている。
 十二月の価格は弱気配となっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0~0)		7 (6~8)	0
	13~14		並	カラマツ	(0~0)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	21 (20~22)	4	9 (8~11)	0

- 注) 1. 前月差の△印は値下りを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

厳冬二月の頭、私は和泉屋旅館を訪れました。自宅から徒歩十五分、職場からは三分……その金曜日は定時の鐘が鳴るや、鼻歌も漏れそうな具合で支度を整え宿に向かいます。あまりにも近すぎる目的地ですが、私にとって旅行と呼ぶには十分すぎる企てでした。
 食事を終え深夜になると、甚だ静寂なる長い廊下で吐いた白息がきらきらと音を立てて消えてゆくのが聞こえます



「南会津紀行」

福島県南会津農林事務所 吉井順平

例えばそれはフィルムカメラであつたり、オーディオレコードであつたりしますが、当該世代を知らない若者たちにとって、それらは目新しく映ることがしばしばあります。近頃「レトロ」などと表現されるあれこれは、恐らくは流行り廃りの荒波には抗えず、再び消えてゆくように思います。翻つて、日本人の心に刻まれた物や風景は時に懐古趣味のおさまりに入りきらず、長く愛され続けるものです。南会津町に佇む和泉屋旅館はまさしくそれで、店構えからはホームシックにも似た感情を抱きます。

悠悠閑閑とした生活を送るにつれて、和泉屋旅館での旅愁はやがて鉛色になり、記憶から消えてゆくでしょう。そこに感傷はありません。きりりと肌をつねる冬の寒さに触れるたび、それが思い出を掘り起こさせんとする悪戯か、はたまたしらけた空つ風に過ぎないのか、区別をつけないままその冷たさの感触を楽しむのだから。

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



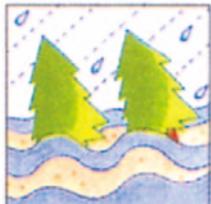
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



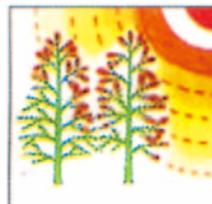
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



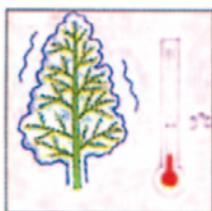
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカット解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支 店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策

- 企業防災のご提案
- 保管スペースのご提案
- 災害時のゴミ対策



その日を恐れるのではなく、その日に備える



福島ミドリ安全株式会社

代表取締役社長 白石昇央

【本社】〒963-8550 福島県郡山市桑野4-1-22
TEL.024-923-5178・FAX.024-923-5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



SR3100

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



破砕径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1